

授業づくりの流れメモ（大溝謙二郎）

- 1 教科書を読んで単元名と学習する内容を確認します。（単元最初と最後のページ）
- 2 指導書から指導事項を確認します。
- 3 学習指導要領解説を読んで、指導事項を理解します。
- 4 指導事項と照らし合わせながら教材文を読みます。
※3と4を繰り返し行いました。
- 5 指導事項を身に付けさせるための言語活動を考えます。
※先行事例を検索して参考にしました。
- 6 指導事項と組み合わせながら単元を通した学習課題を考えます。
言語活動は、あくまで指導事項を身に付けるための目的意識をもたせる手段です。
- 7 単元を通した学習課題を解決するための、単元計画を考えます。
まず、単元を通した学習課題（言語活動）が「二分の一人式スピーチをしよう」だったので、三次はその作成で決まりです。
次に、指導事項を身に付けるために効果的な学習活動（児童の学びの姿）を考え、二次を設定しました。
最後に、単元の導入で、言語活動に対する関心を高め、指導事項に対する課題意識をもたせるための活動（学びの姿）を考え、一次を設定しました。
※二次と一次の単元計画は行ったり来たりしながら構想しています。
評価の観点に関して、「具体の評価規準」は、児童の具体的な姿で書いています。
- 8 3～7において、教科書や指導書、学習指導要領解説を読む中で、本単元で習得させる用語と方法が見えてきます。それを、単元計画の中に位置付けていきました。
また、「本単元で働かせる見方・考え方」についてもここら辺りで書きました。国語では「言葉による見方・考え方」を働かせていきます。「言葉による見方・考え方を働かせる」とは、言葉による見方・考え方を働かせるとは、児童（生徒）が学習の中で、対象と言葉、言葉と言葉との関係を、言葉の意味、働き、使い方等に注目して捉えたり問い直したりして、言葉への自覚を高めることとあります。何に注目して、どのような考え方をすると、言葉への自覚を高められたかということでもあります。
例えば、のびよの気持ちを想像する活動で、実は心内語に注目して読んでいたというのが、「言葉による見方・考え方を働かせること」の一つです。単元の中で、様々な言葉による見方・考え方を働かせることになります。その中でも、大切な見方・考え方として、今回は「場面の移り変わり結び付けて、中心人物の心の変化を捉えること」としました。これが、見方・考え方なのか、見方なのか、考え方なのか、見方と考え方は切り離さずに捉えるのか、勉強中です…。

- 9 「学習指導要領における該当箇所」は学習指導要領解説を読んで、該当箇所を書きました。
- 10 「教材・題材の価値」については、指導書にも書いてありますので、読んでみると参考になります。ただ、単元で指導すべき事項が、この教材ではどこに含まれているのか考えながら、教材文を読むことも大切だとは思いますが。(児童用教書を使って)
- 11 「本単元における系統」は、指導書にある『『新しい国語』領域の系統』を見て書きました。
学習指導要領解説では、
構造と内容の把握→精査・解釈→考えの形成→共有
指導書では、
音読→読み取る→読み深める→感想や考えを持つ→読み広げ・読み比べ
となっています。
- 12 「児童の実態」については、まず調査項目を決定します。「資質・能力」と「学び」の2つに分けて考えます。
「資質・能力」は、本単元の「基本」(指導事項と用語・方法)に関すること。
「学び」は、「主体的・対話的で深い学び」に関することだと捉えています。ですから、「資質・能力」に関する調査内容は単元によって変わりますが、「学び」に関する調査内容は大きく変わらないと考えられます。
学力調査の結果からもってくることもあります。
この調査結果をもとに、考察を書きました。あくまで、児童の実態に関する考察なので、そこから見えてくる手立ては、次に書くようにします。
- 13 「指導に当たっての留意点」は、
視点①～⑤について書きます。本時の授業のことだけでなく、単元全体をとおしての留意点も書いています。
最後に「人権が尊重される授業づくりの視点」について書きます。これは、文部科学省の「別冊 人権教育の指導方法等の在り方について[第三次とりまとめ]実践編」の「人権が尊重される授業づくりの視点例」を参考に書いたものです。
留意点の文体は「〇〇することで(手立て)、〇〇できるようにする(目的)」の形に、できるだけそろえました。
- 14 本時は改めて書く必要もないと思いますが、目標、めあて、まとめ、評価に整合性があるか、そして、それが単元を通した学習課題に児童の思考の流れで結びついていくかに気を付けて考えました。学習活動はできるだけ少なくしています。
- 15 板書計画とICT計画をそのまま書きました。最後の「見方・考え方を働かせて解く適用問題等の計画」についてです。第三次の内容や家庭学習などが考えられます。第三次で、場面の移り変わりと結び付けて中心人物の変容をとらえるといった見方・考え方を働かせて、自分のおすすめの本を紹介するなどです。